

# 成長につなぐ

— 事例17 ゴールズ&169ターゲット

159

## ウィズソル



ウィズソルと南観音小学  
校の取り組みに広島市教  
育委員会も注目している  
という

開発も社内で行っているのが大きな特徴だ。近年は飛行ロボット（ドローン）を活用した検査装置を開発し、現場で活用している。

ウィズソル（広島市西区、外輪純久社長）は、2022年4月に持続可能な開発目標（SDGs）宣言を策定した。石油精製プラントや発電所などの非破壊検査を主力事業としており、「日本のものづくりを支え『守る』」「地球の非破壊検査は検査装置の

域社会の発展とともに「など四つの貢献内容を掲げた。同社は1961年の設立で、非破壊検査や熱処理、技術者派遣などを手がけ、北海道から南は鹿児島まで全国に約30の拠点を有する。主力の非破壊検査は検査装置の

## 小学校と連携 SDGs 交流活動



SDGs宣言の策定後「地域との交流を大切にしたい」（新本康弘会長）と本社の隣に立地する南観音小学校を訪問。協力できることがあればと、相談したところ6年生の総合学習の授業を共同で行うことになった。

同校の斉藤啓一校長によると小学校がSDGsを目的に企業と連携して活動するのは大変珍しいという。生徒自身に何をしたいか考えてもらい、両者でどんな活動を行うかを検討。22年度は道路を鉢植えの花で彩る「フラワーロード」に取り組んだ。

鉢植え作業は、参加者が役割分担することで順調に終了したという。23年2月に6年生約110人とウィズソルから外輪社長ら約10人が参加して、プランターにパンジーを鉢植えし、道路に設置。小学校に面する約100坪の何げない道路は、パンジーが咲き誇る道に変わった。鉢植えのパンジーは3月に小分けして地域の人に配布。

南観音小学校にはお礼の言葉が多数寄せられた。新本会長は「地域の人に喜んでいただき、当社もうれしかった」と振り返る。

23年度も南観音小学校との活動を継続。9月にウィズソルがどんな会社か、どんな事業を行っているか6年生に説明した。社員がスライドや映像を交えて紹介、ドローンの実演飛行は生徒に大好評だった。22年度同様に24年3月の卒業式に向けて、6年生との共同事業を実施する計画だ。